

横浜冷凍株式会社

サステナビリティボンド・フレームワーク

2021年8月

サステナビリティボンド・フレームワーク

1. はじめに

当社は 1948 年に横浜の地で創業し、食料難にあえぐ戦後の日本人の貴重なたんぱく源となる魚類やエビなどの水産物を、水揚げされた横浜から全国の卸売事業者へ販売する事業としてスタートしました。また、新鮮な水産物を保管するために必須となる冷蔵倉庫の事業も、ほぼ同時に始まりました。これら冷蔵倉庫事業と食品販売事業を主事業とし、活動の場をお客さまのニーズ、食生活の多様化とともに日本全国、世界へと広げてきました。

創業以来 70 年以上にわたり、当社の理念である「会社は社会の公器であり、利益は奉仕の尺度である」に従い、地域のためになる企業であることを常に意識し、日本の食を支える企業としての役割を担ってきました。そして、事業活動全般を通じ、「お客様の満足」と「地域社会貢献活動」や「環境保全活動」を通じて社会的責任を果たしてきました。2020 年 11 月には、さらにサステナビリティへの取り組みを加速させるべく、「ヨコレイ 事業ビジョン 2030」と「ヨコレイ サステナビリティビジョン 2030」を策定しました。

この度、こうした当社の取り組みを幅広いステークホルダーの皆様にご覧いただき、取り組み推進のための資金を調達すべく、サステナビリティボンドの発行を決定し、サステナビリティボンド・フレームワーク（以下「本フレームワーク」といいます）を策定しました。

2. 2030 年に向けて

企業として利益だけを求めていた時代から、地球環境問題を筆頭に社会貢献、企業統治等、より社会と共生しながらの持続可能な経営が求められています。そうした中で、2020 年 11 月、「ヨコレイ 事業ビジョン 2030」と「ヨコレイ サステナビリティビジョン 2030」を策定しました。「ヨコレイ 事業ビジョン 2030」では、「ありがたい姿」と定量目標を掲げました。「ヨコレイ サステナビリティビジョン 2030」では、「明るい色の未来へ～ヨコレイは食の安定供給により、持続可能な社会に貢献します～」を掲げ、5 つのマテリアリティについて定性目標・定量目標を定めています。

【ありがたい姿】

冷蔵倉庫事業

伝統と革新を融合した
スマートコールドサービス
をお約束します

3つの指針

- 環境配慮No.1を強みとした低温物流事業の更なる強化
- 多機能物流センターで高効率とダイバーシティをけん引
- ステークホルダーに選ばれ続けるヨコレイ品質で世界へ

食品販売事業

お客様とともに食の
独自価値を実現し、
生産者に寄り添い守り、
世界の食卓を豊かにします

3つの指針

- 過去から脱却し時代の変化に対応し、お客様とともに独自価値を実現
- あらゆる資源を活用し、グローバル展開を加速
- 持続可能な食と地域づくりの実践を強みにした事業展開

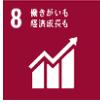
【マテリアリティと定性目標・定量目標】

マテリアリティ	定性目標	定量目標
地球環境との共生	<ul style="list-style-type: none"> エネルギー利用の効率化を目指して消費量削減と再生エネルギー使用量の拡大をはかる 自然冷媒への移行促進などを通じ、温室効果ガスの排出量を削減する 廃棄物の適切な処分とリサイクル材料の使用などにより、環境負荷を低減する 海洋生態系の保全に尽力する 	<ul style="list-style-type: none"> 収容能力あたりの温室効果ガス排出量2015年比40%削減 自然冷媒導入率80%以上
働きがいのある職場づくり	<ul style="list-style-type: none"> 労働力不足に対応するための施策を強化する 働きやすい職場環境を整備する 女性活躍の推進など人材の多様性を確保するための施策を実施する 労働安全衛生への取り組みを継続する 	<ul style="list-style-type: none"> 働きがいを実感している従業員の割合80%以上 女性管理職人数2020年度比2倍以上
より高い品質・サービスの提供	<ul style="list-style-type: none"> 食料の安定供給に尽力する 食品廃棄物を削減する 安全な製品・サービスを提供する体制を構築する 食の安全を徹底する 	
地域社会とともに発展	<ul style="list-style-type: none"> 地場産業の活性化を促進する 環境、社会に配慮したサプライチェーン全体の協力体制を構築する 	
経営基盤の強化・健全性の確保	<ul style="list-style-type: none"> BCP体制(自然災害、感染症への対応や情報管理など)を構築する 法令順守を徹底する SDGsに関する取り組みの強化と積極的な開示をする コーポレートガバナンスの充実にに向けた継続的な取り組みを行う 	

3. SDGs への取り組み

当社が経営理念「会社は社会の公器であり、利益は奉仕の尺度である」のもと継続してきた事業活動は、SDGsの理念に合致するものであると考えています。今後も SDGs のゴール・ターゲットを参照しながら、事業評価、改善のため対応を進めていきます。



取り組みの概要	具体的な取り組み	対応する SDGs
<p>環境への取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> 北海道から鹿児島まで、全国の事業所で「グリーン経営認証」を取得、自然冷媒や太陽光発電システムの導入を推進し、環境負荷の低減に取り組んでいます。 	<ul style="list-style-type: none"> グリーン経営認証ラベル 自然冷媒の導入推進 太陽光発電システム 	  
<p>省人化・自動化システムの導入</p> <ul style="list-style-type: none"> 冷蔵倉庫内の省人化、省力化システムの導入、ペーパーレス推進などにより、環境負荷が少なくエネルギー効率のよい事業運営を行っています。 	<ul style="list-style-type: none"> 電動式移動ラック カーゴナビゲーションシステム 	 
<p>ダイバーシティへの取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> 女性活躍、外国籍の方々の積極的な採用、また障がい者の働く環境整備などを進め、多様性を確保し能力・個性を發揮できる職場づくりを目指しています。 	<ul style="list-style-type: none"> 女性の活躍を積極的に支援 	 
<p>寄付金・協賛金による支援</p> <ul style="list-style-type: none"> 社会福祉活動として、横浜市社会福祉協議会、漁船海難遺児育英会、神奈川新聞厚生文化事業団などへの支援を行っています。 		  
<p>地域社会への貢献活動</p> <ul style="list-style-type: none"> 横浜市立の児童・生徒を対象とした各種イベント事業を支援。 またサッカークラブ「横浜 FC」のオフィシャルクラブトップパートナーとして、スポーツ振興と地域社会への貢献を目指しています。 		

4. フレームワーク

当社は、2020年11月策定の「ヨコレイ サステナビリティビジョン 2030」におけるマテリアリティに掲げられた取り組み推進のための資金調達として、サステナビリティボンドの発行を決定し、本フレームワークを策定しました。

本フレームワークは、国際資本市場協会（ICMA）の定める「サステナビリティボンド・ガイドライン（Sustainability Bond Guidelines）2021」、「グリーンボンド原則（Green Bond Principles）2021」、「ソーシャルボンド原則（Social Bond Principles）2021」、及び環境省の定める「グリーンボンドガイドライン（Green Bond Guidelines）2020」に基づいて策定され、以下の4つの要素について定めています。

1. 調達資金の使途
2. プロジェクトの評価と選定のプロセス
3. 調達資金の管理
4. レポーティング

4.1 調達資金の使途

今回サステナビリティボンドによる調達資金は、以下のいずれかの適格クライテリアを満たすプロジェクト（気仙沼ソーティングスポットⅡ、長崎ソーティングスポット及び福岡 ISLAND CITY 物流センターの建設が該当します。各プロジェクトの詳細については別紙をご参照ください）に係るリファイナンス資金に充当する予定です。

【ソーシャル適格クライテリア】

マテリアリティ	適格プロジェクト	プロジェクト分類	対象となる人々
働きがいのある職場づくり より高い品質・サービスの提供 地域社会とともに発展	労働者の働きやすさに配慮しつつ、地元漁業の振興に貢献する、地元産の魚の加工が可能な加工場・冷蔵倉庫の整備	食の安全	当社が提供する食料品の消費者
		社会経済的向上とエンパワメント	漁業関係者、女性や高齢者をはじめとした労働者
		手ごろな価格の基本的インフラ設備	災害発生時の被災者

【グリーン適格クライテリア】

マテリアリティ	適格プロジェクト	プロジェクト分類	プロジェクト概要
地球環境との共生	環境に配慮した物流施設の整備	グリーンビルディング	CASBEE：A ランク以上取得済み、もしくは今後取得予定の物件の建設、取得
	自然冷媒の導入	汚染防止及び管理	既存及び/又は新規冷蔵倉庫における自然冷媒の導入

	太陽光発電システムの導入	再生可能エネルギー	国内外の物流センターにおける太陽光発電システムの導入
	エネルギー消費量の削減	エネルギー効率	LED 照明等の高効率な照明器具の導入（30%以上のエネルギー効率の改善が見込まれるものに限る）

4.2 プロジェクトの評価と選定のプロセス

サステナビリティボンドの資金使途となるプロジェクトは、「ヨコレイ サステナビリティビジョン 2030」及び当社マテリアリティに基づき選定されます。当社経理部が対象となるプロジェクトを選定し、選定されたプロジェクトの適格クライテリアへの適合性を広報 IR 部が評価します。そして、経理部長及び広報 IR 部長が、上記プロセスを経て選定された適格プロジェクトについて総合的に分析・検討した上で最終決定を行います。その結果については、取締役会に報告されます。

なお、すべての適格プロジェクトについて、環境・社会的リスク低減のための以下について対応していることを確認します。

- 事業実施の所在地の国・地方自治体にて求められる環境関連法令等の遵守と、必要に応じた環境への影響調査の実施
- 当社の環境方針に沿った資材調達、環境負荷物質への対応、廃棄物管理

4.3 調達資金の管理

当社経理部が、サステナビリティボンドの調達資金について、適格事業への充当及び管理を行います。調達資金が全額充当されるまで、実施された適格プロジェクトへの充当額を一定期間(半期)毎に内部会計システムを用いて、追跡、管理します。

調達資金は、サステナビリティボンド発行後、早期に対象プロジェクトへの充当を完了する予定です。仮に未充当資金が発生した場合、現金及び現金同等物にて運用し、早期に上記の適格クライテリアを満たすプロジェクトに充当します。

4.4 レポーティング

調達資金の充当状況、社会的便益及び環境改善効果として当社が定めた内容について、合理的に実行可能な限りにおいて、年次で、当社ウェブサイト上あるいは統合レポートで開示することを予定しています。

(ア) 資金充当レポーティング

調達資金が全額充当されるまで、年次で、以下の内容をウェブサイト上あるいは統合レポートで開示予定です。

- ① 充当した資金の額
- ② 未充当資金が発生した場合、その金額、充当予定時期および未充当期間の運用方法

(イ) インパクト・レポーティング

サステナビリティボンドが償還されるまでの期間において、社会的便益及び環境改善効果として以下の表のインパクト・レポーティングを、年次で、ウェブサイト上あるいは統合レポートで開示予定です。

表：インパクト・レポーティング

【ソーシャルプロジェクト】

プロジェクト分類	アウトプット (プロジェクトの進捗・結果)	アウトカム (課題解決に伴う効果)	インパクト (アウトカムから発現する効果)
食の安全	<ul style="list-style-type: none"> プロジェクトの概要 	<ul style="list-style-type: none"> 取扱（出荷）量あるいは取扱（出荷）金額 	<ul style="list-style-type: none"> 安全な食料品の提供
社会経済的向上とエンパワーメント	<ul style="list-style-type: none"> プロジェクトの概要 	<ul style="list-style-type: none"> 取扱（出荷）量あるいは取扱（出荷）金額 機械化・自動化された工程の概要（設備数を含む） 	<ul style="list-style-type: none"> 地元の漁業の振興を通じた地域経済の活性化と、それによる過疎化の防止 女性や高齢者をはじめとした労働者が働きやすい労働環境の実現
手ごろな価格の基本的インフラ設備	<ul style="list-style-type: none"> プロジェクトの概要 	<ul style="list-style-type: none"> 避難場所の利用状況 	<ul style="list-style-type: none"> 災害に強い地域社会への貢献

【グリーンプロジェクト】

プロジェクト分類	環境改善効果等
グリーンビルディング	<ul style="list-style-type: none"> グリーンビルディング認証の取得状況及び認証レベル CO2 排出量
汚染防止及び管理	<ul style="list-style-type: none"> 自然冷媒に切り替えた施設数
再生可能エネルギー	<ul style="list-style-type: none"> 太陽光発電量 発電による CO2 排出削減量の推計値
エネルギー効率	<ul style="list-style-type: none"> エネルギー消費量 従来比のエネルギー消費削減量

(別紙) 今回サステナビリティボンドの資金使途となるプロジェクト

気仙沼ソーティングスポットⅡ

施設外観

適格クライテリア
<p>【ソーシャル適格クライテリア】</p> <ul style="list-style-type: none"> • 食の安全 • 社会経済的向上とエンパワーメント • 手ごろな価格の基本的インフラ設備 <p>【グリーン適格クライテリア】</p> <ul style="list-style-type: none"> • 汚染防止及び管理 • 再生可能エネルギー • エネルギー効率
特徴
<ul style="list-style-type: none"> • 東日本大震災から10年という節目を迎えたことから、震災で損害を受けた地域の復興と地域経済発展のために建設し、2021年7月より稼働しております。 • 同施設は気仙沼地区の地域性を考慮し、地震対策や高波対策を施し、避難場所等も確保しております。 • 最新鋭の自動選別機及び脱パン施設を導入し、大幅な省人化及び重労働の減少による作業環境の改善に貢献しております。 • 環境面では、冷凍設備に全て自然冷媒冷凍機を使用するだけでなく、屋上太陽光発電システム、全館LED照明を導入する等の配慮をしており、災害時の非常電源としても使用できるリチウムイオン蓄電池も備えております。

長崎ソーティングスポット

施設外観



適格クライテリア

【ソーシャル適格クライテリア】

- 食の安全
- 社会経済的向上とエンパワーメント

【グリーン適格クライテリア】

- 汚染防止及び管理
- 再生可能エネルギー
- エネルギー効率

特徴

- 長年地域振興に寄与してきた長崎物流センターを基に、更なる地域経済発展のため建設し、2020年6月より稼働しております。
- 最新の鮮魚ライン及び凍結設備を導入することで、製品の拡充と高品質化に対応できるようになり、海外への輸出等、長崎県のみならず、九州全土の水産業の振興に貢献できると考えております。
- 選別・凍結作業従事者の不足・高齢化、作業の身体的負荷等の課題を解決するため自動選別ラインを導入し、高齢のスタッフを含む社員の作業負担を大幅に軽減しました。
- 環境面では、冷凍設備に全て自然冷媒冷凍機を使用するだけでなく、屋上太陽光発電システム、全館LED照明を導入する等の配慮をしており、災害時の非常電源としても使用できるリチウムイオン蓄電池も備えております。

福岡 ISLAND CITY 物流センター

施設外観

適格クライテリア
<p>【グリーン適格クライテリア】</p> <ul style="list-style-type: none"> グリーンビルディング
特徴
<ul style="list-style-type: none"> 国内外の主要貿易港とのアクセスに優れる博多港に位置し、2021年1月より稼働しております。 「CASBEE 福岡」にてAランクを取得済みの物件です。 「ヨコレイ サステナビリティビジョン 2030」のマテリアリティ「地球環境との共生」に基づいて、屋上太陽光発電システムの設置、自然冷媒冷凍機（NH₃／CO₂）の採用等、温室効果ガス排出量の削減および自然冷媒導入率の増加を実現しました。 貨物の長期保管に優れた自然対流冷却方式（Sittory 2）をはじめ、カーゴナビゲーションシステムと連動した電動式移動ラックやトラック予約受付システムにより省人化および円滑な入出庫が可能となり、荷主・従業員・ドライバーにとって効率的な設備となっています。 本センターは、当社5箇所目となる物流総合効率化法（物効法）の認定を受けており、物流拠点・輸送網の集約などにより物流の大幅な効率化を実現し、CO₂の排出量を68%、トラックの待機時間を70%削減する効果が期待されています。

以上